

第35回 広島・長崎子ども会 親善交歓会



広島・長崎子ども会親善交歓会が8月7日～9日の日程で行われました。35回目の今回は、長崎市から児童、生徒と指導者合わせ71名が参加し、広島団総勢52名をお迎えしました。子どもたちは平和について考え、新たな友だちと友情を深め、リーダーとしての意識を学ぶ有意義な時間を過ごしました。

学んだ2泊3日

川平小学校6年 川口 諒祐

ぼくは2泊3日で3つのことを学びました。

1つ目は平和の大切さです。平和はこわすのは簡単だけど作るの難しいです。でも今は、長崎も広島も元の姿に戻っています。また、平和学習で戦争でたくさんの人が死ぬという事を知りました。今の爆弾は、原子爆弾の数百倍の力を持っているのにもおどろきました。ぼくは、たくさんの人が平和を、心がけて生きていくことを早く実現してほしいです。

2つ目は、たくさんの人とふれあうということです。ぼくは、あまりたくさんの人とふれあうのは苦手です。でもレクリエーションなどでふれあい方を勉強しました。その中でも股の下を通りぬける遊びや子熊さんなどがおもしろかったです。学校などでもやってみたいと思いました。

3つ目はいろいろな所に行ったことです。行き道など今まで知らなかった道を覚えることが出来ました。大浦天主堂は今まで行ったことがなかったので行けてうれしかったです。まちなか龍馬館では龍馬のことについてよく分かりました。とても楽しかったし、たくさんの事を勉強できました。

来年はジュニアリーダーになりたいです。そしてたくさん新たに勉強をしたいです。

学んだことや、今後の抱負

山里中学校3年 深堀水彩紀

私は今回初めて広長（広島・長崎子ども会親善交歓会）に参加しました。だから思ったことも学んだこともたくさんありました。

まず今回の広長で思ったことは、みんなすごく元気で、レクリエーションもすごく楽しかったし思い出になりました。また、初めての広島のみなさんと会って、いろいろな会話をして勉強になったこともありました。

学んだこともいくつかあります。

キャンプファイヤーでは、初めてしたレクリエーションもあり、経験することもできました。また、広長ですることは初めてだったので大変な所や、動けなかった所もありました。でも、そのおかげで学ぶこともできたので、今後の活動にもいかしていきたいし、次回の広長では、もちろん今回の経験をいかして、何ごとも積極的に活動していきたいと思います。そして来年は高校生になるので、子どもたちに頼られるリーダーになるよう、1つ1つの活動を精一杯がんばりたいです。

また、次回の広長は広島で行われます。初めての広島になると思うけど、他のリーダーに知らない所を聞いて、良い広長になるようにしたいです。今回のおかげで、楽しかったこともあり、今後についても考えることができたので、次回の広長が楽しみです。

ありがとう

長崎女子高等学校3年 福井 美樹

私の広長（広島・長崎子ども会親善交歓会）スタートは6年生からで、団員として4回、リーダーとして3回、この交歓会に参加してきました。長く携わってきたこの広長もジュニアリーダーとして現役で参加できる最後の年であったので、いつもより気合いが入りました。憧れて入ったジュニアリーダー「空」もいざ自分がやってみたら子どもたちのことを第一に考え、動かなければならないので大変だと最初の頃は思っていたのですが、やっていくうちに自分に合った好きな活動だったので、子どもたちと楽しく活動することができました。

今回いろいろと大変なこともあり戸惑いましたが、事前研修から本番研修までとても充実した5日間を送ることができました。

平和学習では食糧危機や戦争と核利用について学びました。好き嫌いをせず食べ残しをしないこと。世界中みんなが仲良くすること。すごく大切なことだと思いました。

最後に、これまでの交歓会でたくさんの友達ができたことは一生の宝物です。なので、みんなも今回できた友達を大切にしていってほしいと思います。

今回の交歓会を通して、反省点、学んだことがたくさんありました。ジュニアリーダーとしてまだまだな部分があるので、次につなげられるようがんばりたいと思います。今後も何らかの形でこの交歓会に携わっていただきたいと思います。



尾戸っ子を地域ぐるみで育てよう 尾戸海の家まつりの紹介

尾戸小学校区青少年育成協議会
会長 島崎克比古

琴海公民館区には、小学校4校（村松・長浦・形上・尾戸の各小学校）それと中学校1校（琴海中学校）があります。また、各小学校区には、それぞれ子どもを守るネットワークがあり、地域・家庭・学校が連携し合って活動を進めています。

これらの中で、今回は、尾戸小学校区を中心とした活動を紹介します。

『尾戸海の家まつり』は、小学校・保護者・地域住民が一体となり取り組む最大の行事です。その舞台となる『尾戸海の家』は、平成15年に尾戸小学校の職員住宅を有効利用するために、地域住民・保護者が力を合わせ、自分たちの力だけで改築された研修施設です。その後、シーカヤック艇庫などの施設を増設し、現在では立派な研修施設として地域活動の拠点となっています。

このような地域の思いが詰まった『尾戸海の家』の完成を受け始まったのが、この行事です。今年度は第9回目を迎えましたが、子どもたちにふるさと尾戸の自然のすばらしさと「子どもは地域の宝。地域住民みんなで守り育てよう」という思いを伝えるために様々なプログラムを考え実施してきました。これまでに、シーカヤック体験・ペーロン体験等の自然体験活動やグラウンドゴルフ、風船バレー、昔遊び等の三世代交流を中心に実施してきました。運営についても三者の協力体制がしっかり確立されており、地域の親睦と子どもの健全育成に大きな役割を果たしています。

尾戸地区は小規模な地区ですが、そこにはまとまりのある強い絆がよい伝統として残っています。子どもたちは、地域住民の温かい思いを肌で感じながら、健やかに成長していているところです。



子どもゆめ フェスティバル2011

11月23日(水・祝) 12:00~15:30
に長崎市民体育館で開催されます。

子どもたち手作りのゲームコーナー、ステージ発表などの楽しい催しが盛りだくさんです。
全て無料で遊べるので、子どもさん、大人の方、皆さんのご来場をお待ちしています！

編集後記

世界では、内紛や干ばつで飢餓に苦しんでいる人々がたくさんいます。中でもソマリアが最も悲惨で、深刻な栄養失調の乳幼児64万人。90日で3万人が餓死していると聞きます。

各国から救助物資が届けられているものの、横領、横流しなどにより届かず、死者は増える一方です。異常気象も一因と言えますが、権力争いに終始する人間の醜い強欲が1番の要因です。

平和に生きていくうえで、最も大切なのは他人を思いやる心。その心を持っていれば、肌の色、言葉、宗教が違って、話し合えば分かり合えるはず。

『1人はみんなのために、みんなは1人のために』私たち1人ひとりが、身近なところから思いやりの心をもって人に接し、行動していくことが今求められているのではないのでしょうか。